

梓川

梓川は、上高地の溪谷の中心的存在です。梓川は、槍ヶ岳（3,180m）の急斜面を源流とし、溪谷を流れ、象徴的な河童橋の下を通ります。川は南下して、風光明媚な大正池を形成します。谷を勢いを増して抜け、そして広がり、奈川渡ダムで梓湖を形成します。

梓川の名は、弓の材料として珍重された梓の木に由来するという説があります。この川の流域は、古くから農林業の中心地でした。梓川は、住民に魚や飲料水を供給するだけでなく、松本までの下りに沿って多くの産業を支えてきました。上高地にとって梓川は、この地域の貴重な木材を都会の市場に流すためのルートでした。また、製糸用の蚕の餌となる桑の木の栽培にも役立っていました。上高地から15キロほど下流では、地元の娘たちが川の動力で繭を糸にする機械を操作し、繭を使いやすいようにほぐし、生糸を織り上げていました。地元では、梓川の清らかな水を飲むと、肌がきれいになると言われていました。19世紀末、登山家で宣教師のウォルター・ウェストン（1861-1940）は、この川の透き通った水と白い小石の岸边について書き、槍ヶ岳に登る仲間に食べさせるために、梓川の釣り人から獲れたての魚を12匹買ったと語っています。

現在、梓川は上高地の代名詞となっています。芥川龍之介の風刺小説「河童」の舞台となった河童橋では、観光客や登山客が川のせせらぎのそばでよく記念撮影をしています。また、ホテルやレストランが立ち並び、ウェストンが滞在した時代からほとんど変わらない川の風景を楽しむことができます。